

「それと、ガラス片が結構落ちていいので気をつけてください。」始まりのミーティングでプレイリーダーの「にゅう」さんがみんなに伝える。

「思い切り遊ぶ、ときには何もしない、すごいし方は自由です。」

ような自由でリラックスした気持ちにさせてくれる。

プレイパークには、プレイリーダーという人がいる。これは子どもたちが自由に遊ぶための水先案内人兼、火を使う場所を決めるなどの「子どもたちが自由に遊べるようにするための」最

近所によくあるようなブランコやすべり台などごくふつうの遊具が置かれた公園だ。

まだ夏の陽射しそのままの9月の土曜日、そんないたつてふつうのこの公園で「プレイパーク」が開催された。

10時からの開催と聞いていたが、その時間すぎても人はチラホラしかいない。主催の「pp@seisho（プレイパークをつくる会@西湘）」の方々もまだのんびりと道具などを運んで準備をしている。「いつもこんな感じです。特にプログラムもありませんから、自由に来て、好きなことをやって、自由に帰る。」と明るく笑う。

「出入り自由、大人も子ども誰でも遊べます。」
そこは近所の公園に現れた、白昼夢のような冒険広場。
冒險の醍醐味は、「自由と危険」。
どこからともなく集まつた子ども達と大人達は力を合わせ……。
新しい地域のコミュニケーションに「冒険」はいかが？



徐々に人が集まり出し、いつの間にか盛況に。チラシを見てバスに乗ってやってきた人から、たまたま公園に遊びにきいたらやっていたという近所の人など様々。

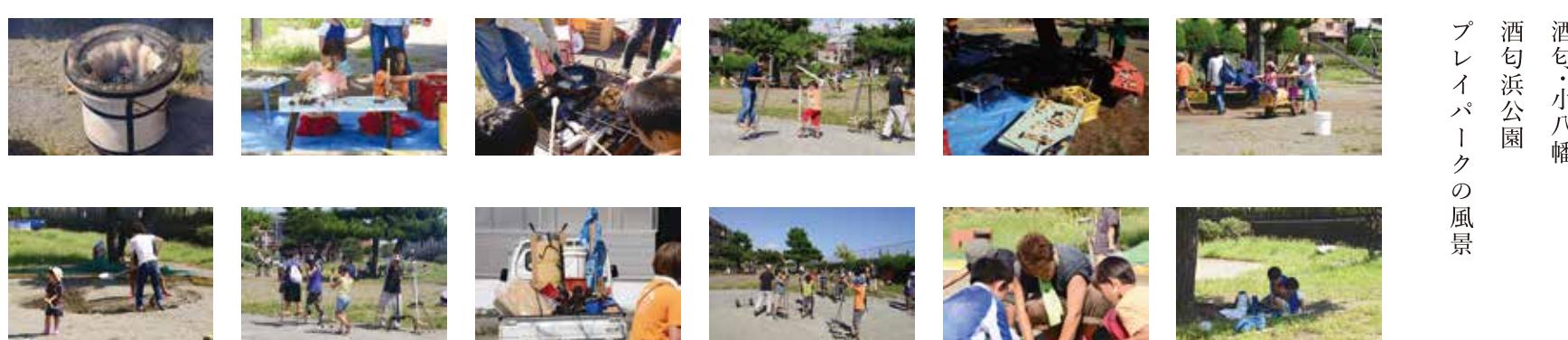


「pp@seisho」の理念。



「ここは子どもが主役の遊び場です。『やりたい』『やって見たい』にチャレンジできる場所です。冒険には小さいケガ、失敗はつきもの。小さいケガを経験し、大きなキケンから身を守ることを覚え、失敗をくりかえし、どうしたらできるかなと工夫を重ねます。」

「ここは子どもが主役の遊び場です。『やりたい』『やって見たい』にチャレンジできる場所です。冒険には小さいケガ、失敗はつきもの。小さいケガを経験し、大きなキケンから身を守ることを覚え、失敗をくりかえし、どうしたらできるかなと工夫を重ねます。」



酒匂・小八幡
プレイパークの風景

自分が子どもだった時の気持ちを思い出すと、まさにそうではなかつたか。子どもの遊びにプログラムはない。またプログラムがないことで、この会は大人にも子どもの頃遊んでいた時